日韓青年親善交流のつどい（7月29日～31日）

7月29日から31日まで、埼玉県越谷市にあるセミナーガーデンで日韓青年親善交流のつどいを開催した。

これは日韓両国の青年が一堂に会し、寝食を共にすることにより、互いの文化や考え方を理解することを目的としているプログラムであり、韓国青年代表団のほか、内閣府青年国際交流事業既参加青年及び一般参加青年からなる日本青年と、日韓青年親善交流のつどい実行委員を合わせて約80名が参加した。

今年度は「えん・つながり～日韓の未来をつくる友情のはじまり～」というテーマを設定した。つどいで出会う人との「えん」と「つながり」を大切にして、日韓の未来を担う架け橋になれるようにという思いが込められている。主となるプログラムは、ディスカッションや日韓文化交流の夕べ、日韓文化体験企画等で構成した。

ディスカッションでは、韓国青年から希望があった「国際交流」、「教育」、「社会」、「文化1（学校生活）」、「文化2（恋愛・結婚）」の五つのテーマで意見交換した。日韓両国の青年は、それぞれのグループで青年が果たす役割等を意見交換し、有意義な時間となった。

日韓文化交流の夕べでは、日韓両国の青年が伝統舞踊や合唱、ダンスパフォーマンスなどを披露した。日本参加青年の中には、初めて韓国の伝統文化に触れることができたという声もあり、大変貴重な文化交流の場となった。

日韓文化体験企画では、日本と韓国の伝統遊びを用意し、参加者が自由に体験できる場とした。互いに教え合うことで、楽しみながら文化を理解することができた。本プログラムの実行委員18名は、6月下旬から準備を開始し、計4回の実行委員会に加えて、係別ミーティングなどを精力的に行った。それぞれの担当はプログラムの企画立案や当日の司会進行を行い、平成29年度日韓青年親善交流のつどいは成功裏に終了した。

目的

日韓青年親善交流のつどいは日本・韓国青年親善交流事業に参加している韓国招へい青年と、内閣府青年国際交流事業既参加青年及び一般参加青年からなる日本青年が一堂に会し、研修施設での生活を共にすることにより、両国青年が相手国に対する相互理解、異文化理解の促進を図り、国際交流活動における感覚を向上させることを目的として実施する。

概要

（1）事業名	平成29年度日韓青年親善交流のつどい	
（2）主催	内閣府	
（3）開催期間	平成29年7月29日（土）～31日（月）　二泊三日	
（4）開催場所	セミナーガーデン（埼玉県越谷市）	
（5）参加青年	韓国招へい青年	30名
	日本参加青年	31名
	実行委員	18名（通訳3名含む）

約80名の日韓青年が一堂に会し、交流プログラムを行う

プログラム内容

7月29日（土）	10:40	日本青年施設着、事前準備
	11:45	韓国青年施設着
	12:15－12:50	昼食
	13:00－13:15	開会式
	13:15－14:10	オリエンテーション
	14:30－17:00	アイスブレイキング
	17:45－18:40	夕食パーティー
	19:35－21:40	日韓文化交流の夕べ ・日韓両国青年による文化紹介
7月30日（日）	9:00－12:00	ディスカッション ①国際交流 ②教育 ③社会 ④文化1（学校生活） ⑤文化2（恋愛・結婚）
	12:00－13:00	昼食
	13:00－13:50	ディスカッション成果発表
	14:15－16:00	日韓文化体験企画 ①カキ氷 ②金魚すくい ③韓服着付け ④伝統遊び ⑤クイズ
	16:10－18:00	絆を深める運動会
	18:15－19:00	夕食
	19:15－20:30	共同制作
7月31日（月）	9:00－10:00	閉会式
	10:30	施設発
	11:45	東京駅着、解散

プログラム詳細

● アイスブレイキング

初めて出会った青年たちの緊張をほぐし、今後の交流を円滑にするためのレクリエーションを行った。

○×クイズや、ジェスチャーゲームなど、個人で行うものとチームを組んで行うものに分け、参加者がより多くの青年とコミュニケーションをとれるようなプログラム構成とした。

● 日韓文化交流の夕べ

日韓両国の青年たちが、それぞれ準備した自国の文化を紹介し合った。青年たちは各自、伝統衣装や文化紹介用の衣装に身を包みパフォーマンスを行った。

日本青年は、ソーラン節やダンス、歌、書道パフォーマンスを行った。

韓国青年は、テコンドーやK-POPダンスのほか、ハンドペイントなどを披露した。

● ディスカッション

「国際交流」「教育」「社会」「文化1（学校生活）」「文化2（恋愛・結婚）」の五つのテーマディスカッションを行った。

青年たちは、それぞれが関心のある分野で自国の現状を紹介するとともに、共通点や差異を見出しながら積極的に意見交換した。最後は各グループが話し合った内容を発表し、成果を共有した。

【ディスカッションテーマ】

＜国際交流＞持続可能な交流のため、日韓の青少年（私たち）ができることなど

＜教育＞両国の教育格差など

＜社会＞性平等に対する両国青少年の考えと認識など

＜文化1（学校生活）＞両国の青少年たちが受けている学業に関するストレスとその解消方法など

＜文化2（恋愛・結婚）＞グローバル化とともに増している海外遠距離恋愛と国際結婚に対しどう考えなど

● 日韓文化体験企画

夏祭りをテーマに日本と韓国の伝統的な遊びを体験できるブースを用意し、参加者が自由に交流できる場を用意した。

日本ブースでは、かき氷、けん玉、あやとり、福笑い、金魚（おもちゃ）すくいを用意し、韓国ブースでは、クイズ、韓服の着付け体験、チェギ（蹴鞠）を韓国青年が用意し、それぞれ自由に体験しながら、青年同士で教え合った。

● 絆を深める運動会

日韓混合チームを作り、対抗戦を行った。長縄や玉入れ、協力して荷物を運ぶ宅急便ゲームなど行いながら点数を競い合った。

チームのメンバーで協力することで、自然とコミュニケーションをとることができた。

● 共同制作

日韓青年で二人一組になり、似顔絵を作成した。

その後、チームに分かれ、実行委員から指定された文字を入れて模造紙に飾りつけをした。全体で、合わせると「TSUDOI」の文字になるように構成し、一体感を得られるように設定した。

● 花びら探し

三日間通して行うプログラムで、質問または答えが書いてある紙を一人一枚配布し、日韓青年で質問と答えが一致する「グループ」を探す企画。達成したグループには「一緒に写真を撮る」というお題が与えられ、撮影した写真は、集まった花びらと共に模造紙に貼りだした。

日韓青年親善交流のつどい感想文

たくさんの出会いと愛に感謝

平成29年度日本・韓国青年親善交流事業　参加青年

私がこのつどいに参加したいと思った理由は、たとえ国同士が問題を抱えていたとしても、直に会って触れ合いたいと思っている人が日本にも韓国にもいて、そういった人と人とのつながりが大事ではないだろうか、と思ったからだ。彼らと向き合い目を見てお互いの思いを伝えたいと思った。また、自分が9月の内閣府主催日本・韓国青年親善交流事業の派遣で行くだけではなく、ぜひ韓国青年を日本で歓迎したいと思った。

今回初めて寝食を共にする日韓交流に参加して、不安も多くあったが言語の壁を越えて沢山の笑顔が見られ、心を通わす友達も多くできた。

中でも一番印象に残っているのは日韓交流の夕べである。韓国青年のパフォーマンスは流行のK-POPから、伝統文化であるテコンドーをリメイクしたダンス。みんなで手に絵の具をつけてつくり上げた書道の「日韓の縁」という言葉のプレゼントというようにバラエティーに富んだもので、たくさんの気持ちが伝わってきた。私たちが発表している間もスマートフォンのライトを使っての歓声や、声を合わせて歌ってくれて、こんなにも温かい空間があるのだろうかと思った。

ディスカッションでは「持続的な国際交流とは」、「教育格差問題」、「性平等」、「学校生活」、「変化する結婚観」の五つのテーマで各自興味のあるテーマに分かれ話し合った。両国共通の社会問題を比較しながら解決策を考える非常に有意義な時間であった。特に、私は今まで結婚しないという選択肢にどのような背景があるのか深く考えたことがなかったので、「非婚」について理解する中で、様々な問題に意識を向けて考え方を柔軟にしていくことが大切だと思った。

文化交流では伝統的な遊びや韓服体験、クイズがブースのようになっていて短い時間ではあったが韓国を存分に満喫した。

またここで出会った韓国青年とはつどい後の東京での自由時間にも会うことができた。「渋谷のスクランブル交差点は本当にすごいね！」「ここのラーメンおいしい！教えてくれてありがとう。」と嬉しそうに言ってくれる彼女たちに私も感謝でいっぱいになったし、自分自身も普段何気なく歩いている東京を新たに発見することがあり、この夏忘れられないひと時を過ごすことができた。

交流は言語以上に心で伝え合うとも言われているが、私は韓国語をほとんど話すことができず、やはりもっと勉強して色々なことを聞きたかったし伝えたかったと思うのは心残りである。しかし、今回の経験が今後のモチベーションにつながり、残りの大学生活で自分は何に取り組むべきか明確にすることができた。また韓国青年だけでなく、韓国派遣事業に参加した先輩方とも一緒に活動できたので、派遣に向けてより一層明確なビジョンがたてられた。彼らと再会するのが待ちきれない。

ソーラン節を披露したメンバーと記念撮影をする（筆者右から三番目）

韓国青年が日本青年のパフォーマンスを応援する

この世界の共通言語は「言葉」だけではない

一般参加青年

■参加目的

本プログラムの参加理由は、「近くて遠い存在」を「近くて近い存在」に変えるためだ。私にとって韓国は「距離は近いが、気持ち的に遠い国」だった。韓国に訪問したのは、幼い時に一回だけ。現在の韓国について知るすべは、マスメディアしかなかった。本プログラムを通じ、参加青年と交流して相手国に関する理解を深め、両国の未来に貢献する契機にしたいと考えていた。

■学んだこと

本プログラムに参加するまで私を悩ませたのが「言葉」だ。本プログラムの共通言語は、日本語及び韓国語。私は韓国語が一切話せないため、日本語も英語もあまり得意ではない韓国青年と言語を通じて対話できない。どのように相手国青年とコミュニケーションを取ればいいのか困惑していた。

この難題に突破口を開いてくれたのが「日韓文化交流の夕べ」。このプログラムは、両国の青年が各国の踊り・歌などを披露し、自国文化を相手国に伝える場である。韓国青年は自国文化の表現に加え、日本で流行っている踊りなども披露。その時、相手国を喜ばせようとする配慮を姿勢で表すことで、相手とコミュニケーションを図ることができる、『共通言語は「言葉」だけではない』と気付かされた。

各国の発表終了後、短時間ではあるが、相手国について調べて通訳を介してコミュニケーションを取ることや、身振り手振りで自分の想いを伝えるよう試みた。相手に対してどこまで自分の想いを伝えられたかどうか分からないが、自分の中で「韓国」に一歩だけ近づけたように感じた。

■本プログラム参加後

本プログラム参加後、悶々とした日々を過ごしていた。相手国にもう一歩近づきたい、自分の目で現在の「韓国」を見たいという想いが込み上げていたからだ。居ても立っても居られず、航空券を購入して韓国へ渡航。

現地では本プログラムで出会った韓国青年たちと再会。韓国の文化やトレンドを教えてもらいながら、王宮などを韓国青年たちと共に巡った。青年たちと時間を共有したことで、徐々に互いの心の扉が開き始める。最終的に、両国間での考え方の相違や自分たちの将来など、様々なテーマについてサムギョプサルを囲みながら韓国青年達と5時間語り合った。

一人一人の行動が相手国の心を動かし、日韓の結束を少しずつ強化していく。一つ一つの行動を積み重ねた結果、両国の未来を切り開くことができると確信した。

■最後に

二泊三日という短期間だったが、あれだけ遠くに感じていた存在が少しだけ近く感じられるようになった。同時に、私を大きく変えて下さった大変貴重な機会だった。今後、未熟な私が起こせるアクションは、ごく小さなものかもしれない。だからこそ、今回出会った青年たちと共に、相互理解をさらに深め、両国の未来の一翼を担っていきたいと考えている。まずは自分にできる小さくて、大きな一歩を踏み出したい。

アイスブレイクで韓国青年とゲームを通じて交流する

韓国を訪れ、韓国青年と再会する（筆者右から2番目）

日韓青年親善交流のつどいを終えて

一般参加青年

日韓青年親善交流のつどいを終えて、自分がそこで得たことや考えたことについて述べたい。

まず、私はこれほど多くの韓国の人たちと交流をしたことがなかったのでとても新鮮であった。大学で韓国語や韓国文化の授業を受講しており、大学にも韓国人の友達はいるが、自分と歳の近い韓国の学生たちと韓国文化や日本文化についてこのように多くのことを話す機会はほとんどなかった。

次に私が三日間の合宿の中で印象に残ったことついて述べたい。一点目は、一日目の文化紹介である。韓国青年団の舞台を見て、完成度が高く、彼らが時間をかけて一生懸命準備したことが伝わってきた。最後に披露された手に絵の具をつけて“韓国、縁、日本”と書いた作品は、とても感動して何枚も写真を撮ってしまった。彼らが一つとなって団結していることを感じ、また日本人と交流したいという思いが伝わってきた。日本側も時間のない中で様々に知っている韓国文化や日本文化を披露した。私は、韓国のアイドル歌手の歌に合わせて踊りながら習字を披露したり、日本のソーラン節を踊ったりして見せ、楽しい時間を過ごすことができた。

二点目は、二日目のディスカッションである。ディスカッションでは、韓国と日本の学習習慣に関して話し合い、自分たちの中学高校時代について一人一人話したことが印象的だった。好きなことができる自由な選択肢があり、中学高校生活はとても楽しかったと話している人もいれば、大学受験の勉強のために学校では、音楽や美術、体育の授業もなく、部活もあまりしないという話も聞いた。韓国は大変勉強する国であるということは聞いていたが、これほどとは思わなかった。実際に韓国で教育を受けている本人から聞いてみないと知ることができないことだと思った。

三点目は、この交流会で韓国人や日本人の学生と寝泊まりを共にできた事である。一緒の部屋だった韓国の人がとても優しかったので、話しやすく、日本と韓国の文化やドラマ、音楽、化粧の仕方などについてお互いに夜遅くまで話し合った。互いに相手の国が好きだったので改めて自分たちの国の文化の良さを知ることができた。日本では、韓国の化粧品が若者に人気があるように、韓国では、日本の化粧品が人気であることも分かった。来年は日本に留学しようと考えていると聞いたので、留学した際には、連絡を取り合って一緒に観光し、東京や日本を紹介したいと思う。また、日本の学生たちからは、それぞれの大学での授業の様子の違いや、地域性の違いなどを知ることができよい経験ができた。

今回の交流会のテーマは、「縁」であった。今回、多くの韓国の人たちと交流することによって韓国と日本の身近なつながりに気付くことができた。これからも韓国との「縁」を自分なりに大切にし、育てていきたい。

韓国青年のパフォーマンスの様子

書道パフォーマンスで日韓友好を表現した（筆者左）

同じ部屋で仲良くなった三人

日韓の未来に光を

実行委員長

「えん・つながり～日韓の未来を作る友情のはじまり～」これが今回のつどいのテーマだった。今回つどいで出会う人との「えん」と「つながり」を大切にして、私たちが日韓の未来を担う架け橋になれるようにという願いが込められている。

私は二年前に初めて一般参加で参加し、昨年は実行委員、また平成28年度日本・韓国青年親善交流事業日本参加青年として、そして今年は実行委員長としてつどいに関わらせていただいた。今回実行委員長としてつどいを作り上げていく中で、参加者全員にとって何かのきっかけになるような機会にしたいという思いがあった。つどいでの出会いは韓国青年、日本青年に関わらず一度きりの出会いで終わらせてしまうにはあまりにももったいないもので、つどい終了後にも関係を継続してこそさらに意味が生まれるものだと思い、それを第一に考えながら様々なプログラムを企画した。

今回の三日間を通して、日韓両国の青年たちが互いに理解し合おうと努力する姿、積極的に交流する姿、文化の違いを受け入れ友情を結んでいく姿など、短い時間の中で徐々に打ち解けていく様子を目にすることができた。最初の企画アイスブレイクでは全員が手探りでコミュニケーションを取り、だんだんとチームや全体としての仲間意識が生まれ始め、文化交流の夕べでは日韓両国の青年らが互いの文化や特技などを披露し、日韓青年が一つとなって盛り上がった。二日目のディスカッションでは、国際交流、教育、社会、文化のテーマに分かれそれぞれのグループで熱い討論が行われた。互いの国の現状や青年らの意見を主張しそれを受け入れ、最後は協力して発表し、参加青年全員にとって有意義な時間になったのではないかと思う。

日韓文化体験企画では、日韓両国の昔ながらの遊びや日本の祭りの遊び等を体験し、あちこちから青年らの笑い声や楽しそうな声が聞こえてきた。既に青年らの中に友情が芽生え始めているように感じた。絆を深める運動会や共同制作の時間では、その友情のもと両国の青年で協力し合い真剣に取り組んだ。青年や実行委員も含め、全体としての団結力が生まれた時間だった。そして最終日、青年らはあまりにも短かった二日間に残念そうにしながらも、また日本や韓国での再会を約束し別れた。

異なるバックグラウンドや文化、言語を持つ日韓の青年が打ち解けるのは決して容易なことではないようにも思うが、互いを理解しようとする気持ちや思いやる気持ちさえあれば言語や文化の壁をも超えられるのだと今回改めて感じた。参加青年全員にとって今回のつどいが日韓両国への理解や関心を深めるきっかけとなり、また今後の個々の活動への良い影響となっていれば嬉しく思う。また私自身も、ここでの「えん」「つながり」を大切に今後も繋がっていられるような関係を作っていき、日韓の未来に光を照らす存在になる為今後も積極的に取り組んでいきたいと思う。

閉会式にて参加者へ挨拶をする

再会を約束して、三日間のつどいを締めくくる